

さくら第457号

平成30年1月

さくら

発行所 さくらそろばん
発行者 平瀬重雄
春江町境 17-7: TEL51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

とまか
具体的に動いて
ごらん
具体的に動けば
具体的な答えが
出るから
みつた

『六次の隔たり』

『世の中はとても狭(せま)いと』といいます。どこで誰と誰がつながっているか分かりません。思わぬ場所で思わぬ人とぐうぜん出会うことがあり、友だちの友達がとても有名であったりしておどろくことがあります。

もう、ずい分前のことですが、所用で北海道の札幌へ行きました。中学・高校の同級生である友人N君は札幌から近い距離に住んでおりよく電話しています。

所要がすみ、そろばん教室をしているK先生の好意で市内の観光地を案内していただいている時に、N君という同級生がいることを話しました。すると何ということかK先生が以前、東京の衣料関係の会社でいっしょに仕事をしていたというので本当に驚きました。

N君は、東京から札幌の本社へ転勤となり家庭をもっており、K先生は地元に戻り、そろばん教室を開いたのでした。

さっそくN君に電話してそのことを話すと、K先生とは旧知の間柄と言われました。世の中狭いもので、どこで誰と、どのようにつながっているか分かりません。不思議なものですね。

テレビのあるバラエティー番組で、日本の一番西にある島、沖縄県八重山郡与那国島で最初に出会った人に友人を紹介してもらい、タレントの明石家さんまさんに何人目でたどりつくかという番組がありました。結果は、7人目で明石家さんまさんに出会ったといいます。

2014年8月27日放送の「水曜日のダウンタウン」という番組で、道行く人にダウンタウンの

松本人志さんの電話番号を知っていそうな友人に電話をしてもらい、何人でたどりつくかを行った結果、4人目で本人に電話できました。

このように、ある目的の人までたどりつくにはだいたい6人目といいます。

『六次の隔たり』(ろくじのへだたり)という学説があります。すべての人や物事は6ステップ以内でつながっていて、友だちの友だちをと順に進めば目的につながるといいます。

この仮説は、アメリカのイエール大学の心理学者スタンレー・ミルグラム教授によって1967年に行われたスモールワールド実験がもとになっています。「同封した写真の人の顔と名前を知っていたらその人に送ってください。知らない時はあなたの友人の中で知っていそうな人にこの写真の手紙を送ってください」と160人に送ったところ42通が本人にとどき、とどくまでの人数は6人以内だといっています。

三重県のN先生(女性)は、ケイタイ電話 au の三太郎シリーズのCMで「そろばん」をすばやく弾いている場面を見て感動し、すぐに製作会社と製作者を調べたところ、電通会社でクリエイティブ・ディレクターは篠原誠氏で三重県出身と判明。すぐその人に会いたいという願いが通じ、電通本社で話ができたといいます。会うまでには知り合いの知り合いをと介して実現できたと聞きました。

そろばんを起用したのは、学割のCMで学校で速いものは「そろばん」と思いついたからであり本人もそろばん学習経験があったからとのこと。それにしても、この人に会いたいという強い思いが周りの人たちを動かすのですね。

2018年がスタートします。今年はどうなことにチャレンジしますか。実現するには強い意志が必要です。やればできると言って励まされますが、すぐやめる人もいます。できるまであきらめないという思いを持ち続けることです。

いろいろな人に出会えるということは、反対にすれば様々な人たちがあなたを知っている、見られているということです。「やってみよう」